

# 雪のあるまち、わたしのまち

人口100万人を超える大都市の中で、ひと冬の降雪量が約6cmにも達するまちは世界で札幌だけともいわれています。今月号では、そんなまちの中で元気に除雪ボランティア活動に取り組む人々や、区内で雪と親しめるイベントなどをご紹介します。雪とのさまざまな関わりを通して、札幌での暮らしと雪のこと、もう一度考えてみませんか。

## 雪と暮らす

宮の森中学校では、平成23年から、自分たちの通学路を自らの力で歩きやすくしようと、中学生たちが地域の人たちなどとともに、除雪ボランティアを行っています。この取り組みについて、担当の先生と、参加している地域の方にお話を伺いました。

宮の森中学校教諭 せいのだしろう 青野寿郎さん



▲40分ほどかけて雪を運び出します

積雪時の通学路は、車1台通るのがやっとで、通学に支障がありました。そこで、生徒会や部活生徒を中心に、ボランティアで参加した1・2年生が、荒井山や円山西町など付近の町内会の方々や、土木センターの職員にもお手伝いいただき、毎年2月に1回、雪が多い年には2回除雪しています。生徒たちは、「固くなった雪を運ぶのは大変だけど、やり遂げると気持ちがすっきりするし、みんなが安心して通えるようになるのはうれしい」などと話しています。放課後の活動なので、部活動との調整や日没前に終わらせなければならないなど、時間調整が大変ですが、地域の方も通り、小学校の通学路にもなっているので、中学校だけではなく地域の役にも立っている活動だと思います。

円山西町町内会会長 まきのまさあき 牧野正昭さん



生徒たちに、除雪をしながらボランティアの「心」も学んでもらえればという思いで、当初から参加しています。スコップの使い方など、最初はおぼつかないような生徒もいますが、さすが若者！パワーがあるので、ゲーム感覚で雪をどんどん片付けていくのは頼もしいですね。また、地域で参加している人には、日ごろの運動不足解消にもなっているようですし、普段あまり接する機会のない生徒たちや隣の荒井山町内会の方々ともコミュニケーションを取ることができます。学校と地域、行政の三者が一緒になって除雪に取り組んでいることで、いろいろなことにつながっていると感じています。



▲すっきりきれいになった通学路

## あなたも気軽にボランティア！

冬の歩道は雪や氷などで滑りやすくなります。そこでお勧めなのが「砂まき」です。交差点や滑りやすい場所などに設置している砂箱に入った砂を道にまけば、転倒防止に効果的！自分自身だけでなく、近隣住民や観光客など次に歩く人の安心にもつながる、立派なボランティア活動です。



▲砂はこのような砂箱や区役所などでも入手できます

